

## 第7章 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 各教科等において課題を解決するために必要な資質・能力を学校教育法の規定や各教科等の目標に基づいて明確にしたことで、育成すべき資質・能力を踏まえた課題設定や効果的な学習活動の在り方を明確にすることができた。
- (2) 児童生徒が主体的・協働的に学ぶ必要性を感じる課題の在り方や主体的・協働的に学ぶための効果的な工夫について、研究協力員による検証授業を通して具体化することができた。検証授業では、特に、実生活や実社会とのつながりを意識した課題の解決に取り組む中で学習内容の価値を自覚したり、友達と協働的に学ぶことの意義に気付いたりする児童生徒の姿が多く見られ、参考となる事例を示すことができた。

### 2 今後の課題

- (1) 各教科等の特性に応じた「見方・考え方」を具体化し、児童生徒自らがその深まりを自覚することのできる学習指導の在り方について、研究を進める必要がある。
- (2) 教科横断的な資質・能力の育成の在り方について、研究を進める必要がある。

## おわりに

本研究では、課題を解決するために必要な資質・能力を明確にするとともに、そのような資質・能力を育成する授業の在り方について、課題設定の工夫、主体的・協働的に学ぶ学習の工夫の側面から、理論の構築及び検証を進めてきた。中教審においても新しい時代に求められる資質・能力や授業改善の視点が示されたところであるが、本研究において得られた知見及び実践事例は、各教科等の本質を踏まえた指導法改善に寄与できるものと手応えを感じている。各学校で学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた授業実践を進めるための参考資料として、是非活用していただきたい。

最後に、本研究を進めるに当たり、貴重な実践事例を提供していただいた研究協力員の皆様方、御指導・御助言を頂いた鹿児島大学教育学系准教授 高谷哲也先生に、心からお礼を申し上げたい。

### 【引用・参考文献】

- |                |                                                      |           |
|----------------|------------------------------------------------------|-----------|
| ○ 中央教育審議会      | 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）』                     | 平成26年     |
| ○ 中央教育審議会      | 『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』                           | 平成28年     |
| ○ 文部科学省        | 『小学校学習指導要領解説』総則編，各教科等編                               | 平成20年     |
| ○ 文部科学省        | 『中学校学習指導要領解説』総則編，各教科等編                               | 平成20年     |
| ○ 文部科学省        | 『高等学校学習指導要領解説』総則編，各教科等編                              | 平成21年，22年 |
| ○ 国立教育政策研究所    | 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料』小学校各教科等，中学校各教科等，高等学校各教科等 | 平成23年，24年 |
| ○ 鹿児島県教育委員会    | 『平成27年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析』                          | 平成27年     |
| ○ 鹿児島県教育委員会    | 『平成28年度全国学力・学習状況調査鹿児島県結果分析』                          | 平成28年     |
| ○ 鹿児島県総合教育センター | 『研究紀要第119号』                                          | 平成27年     |
| ○ 時事通信社        | 『内外教育第6407号』                                         | 平成27年     |
| ○ 小学館          | 『総合教育技術2015年5月号』                                     | 平成27年     |